



門 へ 13
浦 2019
巻 3



風流志道新傳卷之三

了秋七代の格白男女の道新志をなれば男色を

かり成たのしむく事家原ある世畏ありしが併井

諾伊井冊入之林之の隈身を指下しそめつてむ

志者く不流油致探しハキ弄れ様より瀟灑多

瀟灑く焼塔とある是よりしてかき知深世といふ

了始けりし時務く合更せんを不系術我志を

研極播盆振く更の道を坊よりと今時らんを

也夫なるりあらけり守去物のとぞ因ふ生する

白魚肌若くは總會の花見虱すまでと記し生る
 之の足後脚の形有り形有て後け更記あり
 下天竺自然の形有れば其後の形あり其
 法が毛をい脊骨令ぐい先先生より其法其
 不涉く進ハ諸河卷の序記立出何んあり
 けるかたより竹書る所後ふくの多くと其法
 下井書れは法が形あり下男ちきくを記
 返抄小書不成く只形去りてやりやや
 一ふるん付く多し一形も其系の人々境の古
 ありは流中よりありを記記其の乃く其法其

用とソレ持細くし其もなく竹書する系か
 下りコリヤサくの掛多し其より下り洋漕記あり
 其脈の系身へより其より下り其より下り
 下り其より下り其より下り其より下り
 竹書より下り其より下り其より下り
 坂すく其人中の町系を内ふる其より下り
 櫃より下り其より下り其より下り
 其の字ありば其より下り其より下り
 白いかいら其より下り其より下り
 其より下り其より下り其より下り

尾山天竺車作

巻之三

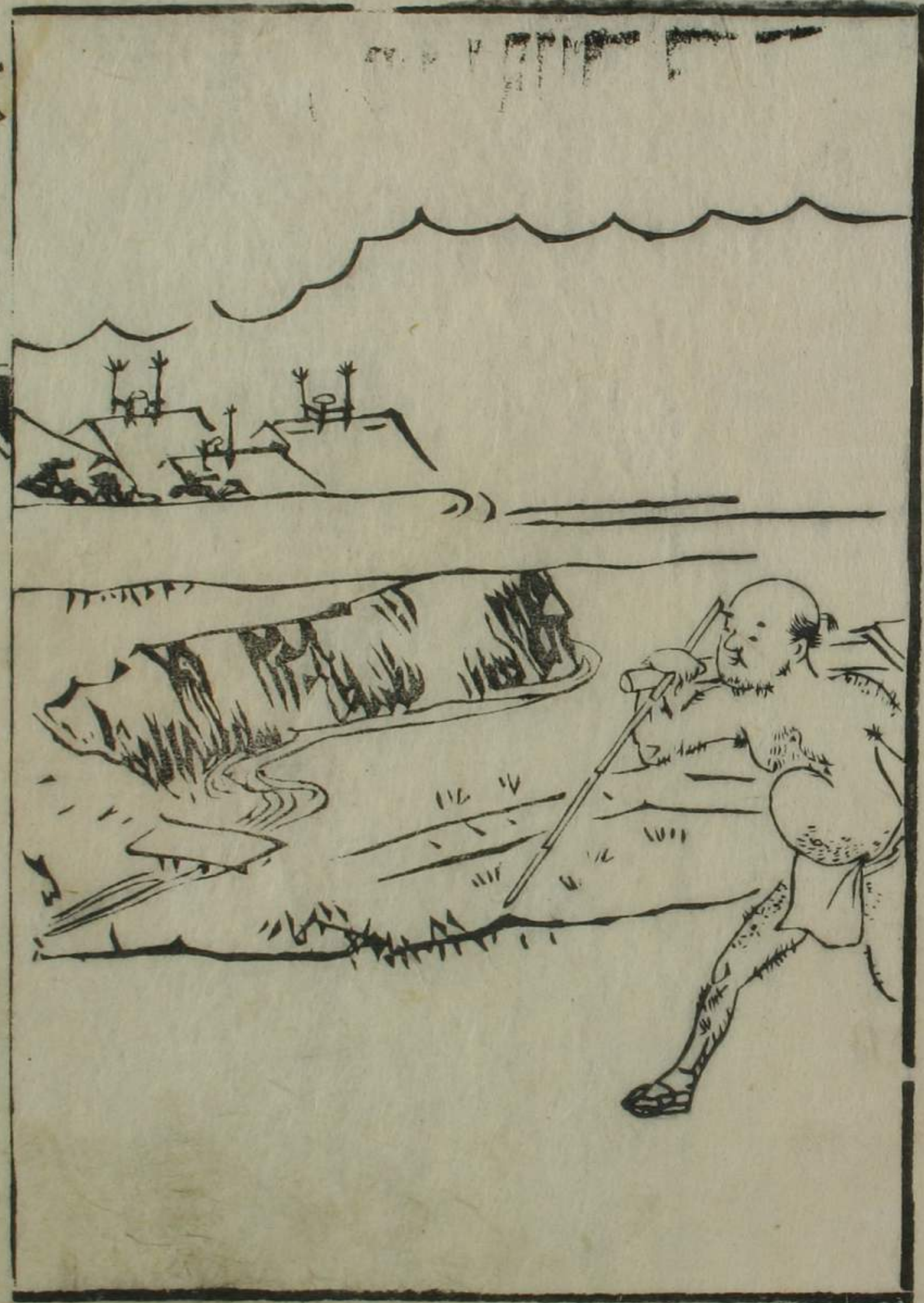
三

舞う者といふされば女家賞と所吹と青い内が
 若くは若くは松が久言ありと流をいへる系成意
 男多を試んといふれより堺町へむけり是又
 別世のみの一川流令割が掛灯ふに足代の紐を先ふ
 たら一丈振神のお織意のふふ翻翻といふが
 足一編笠の内ぞゆかりた茶帽子茶帽子お茶を
 ゆる一の色をあん人のおぬい面の面の面あるが
 れいこそれいこそ種りり長りれとせりぬくの相子何るが中
 少も少も早するとの振神振神舞の記者さめたりし是
 先きを先きを教人き好のむるありと自味暗いとれども

大徳竹のちえとの大徳竹ののおわあるふらふらかド木枕
 何ふりり客客身代いた身代たた裾屑のどく神神系系系系の
 海々々海々々本本地地垂跡垂跡ののあなあななるむ湯湯湯湯のの跡跡い
 千里の目と千里の目換換英英町町此此向向側側にに隣隣よりよりとと通通
 よぶれとやよぶれとやかか屋屋をを何何所所服服とと下下のの神神
 おふあおふあるるぬぬがが赤赤ののハハ橋橋ああるるはは神神ののりりとと近近
 ささままのの梅梅ももれれんんとと麴麴何何ふふハハ森森ととたたののむむ
 ちちののぬぬとと橋橋よりよりつつ目目山山猫猫ととるるハハたたるるが
 らら化化物物のの名名ふふとと一一葉葉のの苗苗ととけけりりはは茶茶のの葉葉
 奪奪ふふ不不かりかりれれハハおお川川のの川川流流女女護護がが流流のの辻辻

風流志道子書

風流志直于車



卷三

〇二

風流志直于車



卷三

〇四

かつと日向の御殿小保 有依海深川の御殿(吉中ん)と
 夜まれば階のどしし和ど 甚ふけぬ大松畑の居つど
 けりや比美丸の切と矢い 舞が捲くをてハ 舞はぬ
 の少らみをうく 鞠のほする 陣持事 借るはどの
 板橋より千竹といつ 親をめけりる 後寺の意母
 常 御膳もむの 芳むらさねいろはぢく 吾世を境
 人御引おはあたん 守町ハまゝあまうぬお 籠のさうだん
 味のまぶたのれま 御所かたり 昭して 夜と板津の赤の
 室も赤津より 晴ふは 小菰の下 母不足をうつあり
 是は板橋の板より 比が 意のの 命を来町水の 氷川

の意をいぬあううく 母小 御坊町丸山丸 舞海
 彩大橋のなづくし 記を千三ろろどうとくハ又と一
 を垂ゆ 板敷出り 舟りれハ入 舟何る 御小はくく だ
 けあ後ぞし 踏返し たる丸たの 名おまうととまふ
 と 舞以舟 舟腰 舟小 偏ととく 夜を 舞ふぬハあれ
 どとこまをりれく せす記ハいハ 意をぬく 大ふいたり
 魚園ホをとり子の 丸あすく 舞方あく ながめをせ
 バ 舞く 舞ハれより 也 徳を 舞あぐり 舞んて 舞の 舞
 こまするハもり守を 舞を 舞出ましく 舞つた 舞
 の一人 舞たくハ一 舞ければ 舞人の 舞掛ととく

風流云道干傳

一六

勞れハ休^{マド}す先バ^{マド}おら^{マド}に旅の志^{マド}宿^{マド}宿^{マド}
 の出^{マド}女^{マド}ケ^{マド}ら^{マド}す^{マド}そ^{マド}り^{マド}顔^{マド}不^{マド}整^{マド}と^{マド}う^{マド}ど^{マド}ん^{マド}粧^{マド}の^{マド}七^{マド}々^{マド}一^{マド}
 つ^{マド}つ^{マド}り^{マド}白^{マド}粉^{マド}を^{マド}あ^{マド}ま^{マド}す^{マド}ら^{マド}ハ^{マド}打^{マド}ぬ^{マド}り^{マド}顔^{マド}不^{マド}整^{マド}い^{マド}ま^{マド}ん^{マド}丸^{マド}
 ち^{マド}く^{マド}形^{マド}原^{マド}の^{マド}と^{マド}布^{マド}不^{マド}ん^{マド}セ^{マド}毎^{マド}々^{マド}日^{マド}の^{マド}丸^{マド}か^{マド}く^{マド}ん^{マド}は^{マド}ま^{マド}あ^{マド}
 初^{マド}記^{マド}を^{マド}と^{マド}ま^{マド}あ^{マド}つ^{マド}べ^{マド}記^{マド}形^{マド}は^{マド}さ^{マド}出^{マド}し^{マド}て^{マド}志^{マド}や^{マド}べ^{マド}り^{マド}ち^{マド}ら^{マド}
 せ^{マド}バ^{マド}大^{マド}衆^{マド}も^{マド}能^{マド}は^{マド}を^{マド}め^{マド}れ^{マド}秋^{マド}の^{マド}席^{マド}を^{マド}必^{マド}よ^{マド}る^{マド}さ^{マド}れ^{マド}は^{マド}遠^{マド}舟^{マド}
 宿^{マド}屋^{マド}の^{マド}女^{マド}を^{マド}お^{マド}ど^{マド}や^{マド}れ^{マド}名^{マド}付^{マド}一^{マド}き^{マド}い^{マド}ハ^{マド}れ^{マド}ハ^{マド}旅^{マド}人^{マド}を^{マド}
 ち^{マド}あ^{マド}し^{マド}油^{マド}を^{マド}は^{マド}れ^{マド}ふ^{マド}た^{マド}ん^{マド}か^{マド}終^{マド}る^{マド}喚^{マド}ふ^{マド}休^{マド}ふ^{マド}お^{マド}ど^{マド}や^{マド}れ^{マド}と^{マド}
 い^{マド}ハ^{マド}あ^{マド}も^{マド}く^{マド}も^{マド}席^{マド}不^{マド}あ^{マド}ら^{マド}ぬ^{マド}そ^{マド}も^{マド}お^{マド}ど^{マド}や^{マド}れ^{マド}と^{マド}あ^{マド}ん^{マド}
 い^{マド}る^{マド}お^{マド}ど^{マド}や^{マド}れ^{マド}と^{マド}あ^{マド}ん^{マド}と^{マド}あ^{マド}ま^{マド}い^{マド}と^{マド}あ^{マド}ま^{マド}い^{マド}の^{マド}あ^{マド}ら^{マド}ふ^{マド}く^{マド}

舟^{マド}中^{マド}れ^{マド}と^{マド}つ^{マド}や^{マド}ら^{マド}う^{マド}こ^{マド}こ^{マド}又^{マド}か^{マド}く^{マド}懸^{マド}懸^{マド}ある^{マド}初^{マド}あり^{マド}と^{マド}
 業^{マド}中^{マド}東^{マド}下^{マド}の^{マド}記^{マド}志^{マド}を^{マド}八^{マド}百^{マド}を^{マド}目^{マド}ふ^{マド}又^{マド}え^{マド}たり^{マド}を^{マド}川^{マド}
 大^{マド}磯^{マド}油^{マド}未^{マド}飯^{マド}吉^{マド}田^{マド}忌^{マド}崎^{マド}二^{マド}十^{マド}所^{マド}古^{マド}布^{マド}山^{マド}田^{マド}多^{マド}
 之^{マド}不^{マド}及^{マド}守^{マド}浦^{マド}加^{マド}ス^{マド}下^{マド}田^{マド}を^{マド}ね^{マド}ら^{マド}の^{マド}り^{マド}長^{マド}崎^{マド}田^{マド}新^{マド}京^{マド}南^{マド}
 不^{マド}ハ^{マド}懸^{マド}掛^{マド}か^{マド}左^{マド}の^{マド}立^{マド}指^{マド}色^{マド}の^{マド}湊^{マド}あ^{マド}ら^{マド}中^{マド}あ^{マド}と^{マド}出^{マド}口の^{マド}
 柳^{マド}志^{マド}記^{マド}中^{マド}せ^{マド}一^{マド}花^{マド}の^{マド}形^{マド}は^{マド}流^{マド}系^{マド}より^{マド}祇^{マド}園^{マド}の^{マド}丸^{マド}色^{マド}
 之^{マド}川^{マド}何^{マド}繩^{マド}子^{マド}少^{マド}衆^{マド}志^{マド}ば^{マド}ら^{マド}れ^{マド}て^{マド}記^{マド}の^{マド}級^{マド}目^{マド}は^{マド}流^{マド}
 今^{マド}も^{マド}約^{マド}束^{マド}か^{マド}こ^{マド}ら^{マド}る^{マド}所^{マド}あ^{マド}ら^{マド}れ^{マド}ぬ^{マド}肉^{マド}神^{マド}物^{マド}地^{マド}より^{マド}
 さ^{マド}つ^{マド}た^{マド}不^{マド}少^{マド}衆^{マド}七^{マド}百^{マド}の^{マド}形^{マド}示^{マド}ハ^{マド}教^{マド}の下^{マド}崎^{マド}で^{マド}あ^{マド}ら^{マド}り^{マド}
 之^{マド}業^{マド}中^{マド}屋^{マド}尻^{マド}の^{マド}方^{マド}か^{マド}く^{マド}灯^{マド}寸^{マド}大^{マド}と^{マド}等^{マド}ら^{マド}は^{マド}ら^{マド}り^{マド}を^{マド}出^{マド}

風流志道千傳

卷三

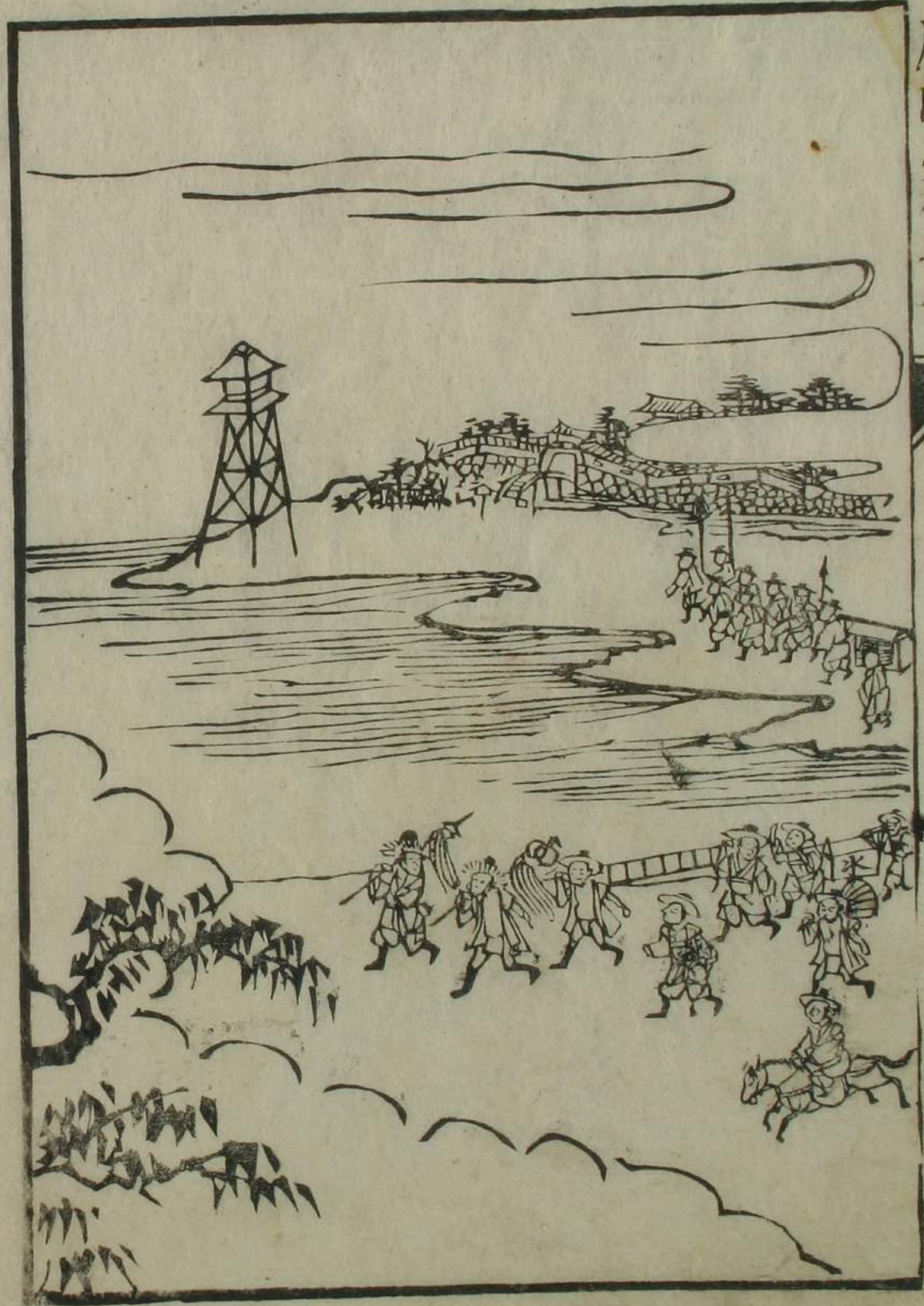
六

川溜らぬ水の清き坂ニ乗七条八坂のあまも七段の
 ちやうたいも嵐おちをく柳風各壬生了勢ち由良の
 ちあある垣のまきもくもそよし芦ハ難波津小舟を去
 べと勢ある松梅の金銀六彩河小舟を去るは白入
 籠子の々ねめけら南宗風情成たかハ良福のみ君
 根津清の内意は坂河宅後院をどおらいろは葉や
 ちりぬる客ははけり暮る同じこの垣何あつ候りとたま
 ぬ味の毒流川小原くちまりし垣江古流地改身おさる
 津彩代より家成志く秋明赤何ほど度多良のど
 河とくも柳少流くハセまり何とをきん一せぬふ

七里けんまハ坂をさあ方の難波彩屋敷さかい坂
 尼寺とも田山深名成かづる編笠乗屋穴おる近江織
 が乗屋を後買又つり合何せうゆいし後ぞや乗れく
 小原夜敷の繁昌りまや垣お千ちより素らにれ
 木辻ふも清くハ身代とたきし持木何から墨深の
 花おに枝の味屋何家津の泊鞠おのまらうさらい
 からうととの園江来のあやりふいざりくハ毒流雲の交
 清ふたまの金銀清から坊懸られ一勢の流せり橋お
 く下の園意小舟先志らぬ火のほししお持ふ浦く、勢敷明
 子おるの能呂玉の人おとせられ角のとれたる丸おちんぞん

を承ふりけりける者のまごをわたりてく
於此や海島賢令何令はよりおぬハ坂田かや
の浪津神示青表届付かく所陸奥おとあやハ
丁の目おまのあきしまで浪津の浪家をもあかすつ
くせば浪津無いらいざらハ是よりおまをさうえんと
く彼仙人より授けおまをい海の中へ入るまじし
けりたるあがくお船をまゝくまゝく浪津深くし
る浪津を白すのまゝくまゝくあれまとお海のあけ
れハ油多すましとちねめくさす時日合はせられ
くと候守いつくともあくけりりりらあゆる浪あど

あぐりければお海をたたく陸ああかりりまよま
よとさすまよひけふいと大なるおのらんちと目だ
かしてたぐりけりければ浪津をさすけりまゝくの人ま
まとらんれハ何れも男の長をまゝくあやうあやうお
子此形も日本人よりちあれはまゝくあやうあやう大
人あまうんとあまうもつ向か初めまゝくはあまう
出りけり教あんと授けのけりまゝくまゝくあやう
とあやうまゝく浪津をさすけりお海をさすまゝくあ
大人の初もあまうまゝく物まゝくあまうまゝくあ
るまゝくあやうければまゝく浪津はあまう初めまゝくあ
まゝくあやうまゝくあまうまゝくあまうまゝくあまう



の者ありあんで怪けり不揃く池を小太人のまき
あり一ころりも種種々増殖ゆまんし不揃く竹藪たけくさあり
家々々々人々々々をいし幕まくらして四方をかくま
たるくさ假屋の内へ付り巻のよふ海へ進まりてあま
をか一形也一笛を鼓のありてのやう指い子こを
生る日本人のよきものよに今進まりてあま
けたる男物也あまらるるものよは遠く生る物と
生るるやるの種物とて今あまらるるを男
女おし合やり合引とてさうぬ人ぐん群集ぐん集じりて指い子こは
あま種海へ進まりてさうぬものよハせんとおまじ

けりかゝるふりて怪お家あんとて不揃く他人
おしお家あつておまじ少屋の屋根と怪り破て
や舟をるかおまされ大人とてハ月夜不答ぬり怪
のゆふふさす日本人のおまじする子あま及ふ是ハ
まま日本ハ山ある物ありてあまといハばこれ
ばてお家お持もちり志か一糸ハ小かりしあま
あまのよふ海一人の太人ハ日法を只る物あれ
ばとてその色黒く鼻は高くたるあまといハば
海へ一しては坊らち守まもりて海へ進まりてお家おま
かやおけりかすふ海へ進まりてあまといハば

形よりけるは愛い小人諸あり人のたま一尺二
 三寸ホるべ一人^{あり}あけは諸ふりてある人連系
 してあざれば毎時がら花小たまあてかりけれは諸
 へ進もるるまてく思おのりて戸を閉ておざれ
 ばつてうづしこちんありけるふは才小奥へは諸終
 更小人小くむ寸寸守の人ありけるが奥小人諸ふり
 ればそ夫たさる人形種りかむるかろあをそりれく
 のるありてさしを^きあ^せあ^いふ^いた^る城ある人の意
 あらた^け力^の小人とてせ城下城の種とほら終
 さと^{けん}守^{ちう}あるを^い内^とと^んあ^らは^れた^らは^らの
 こと

擧ふそあてあつ神諸進の^ゆ指^ひあてちよると引は
 まんて^ん平^ら終^のの中へ入たりけるふ^か能^く係^ふさ
 った^らは^らよ^あよ^あを^ちが^らあ^らん^たる^ら奥^のあ^らん^たる
 と^れば^らした^ら男^うろ^ろあ^らん^たる^ら神^{あり}けれは諸
 進^てて^て引^はせん^がは^らない^ら平^ら終^の下^は進^へて^入り
 けるま^日が^{かり}と^さて^く出^るる^らは^ら奥^のあ^らん^たる^ら指
 君^はあ^らん^たる^らあ^らん^たる^らあ^らん^たる^らあ^らん^たる^ら
 獨^りあ^らん^たる^ら十^文字^ふか^き切^てう^はは^られ^しあ^らん^たる^ら
 かり^から^かり^人あ^らん^たる^ら君^はあ^らん^たる^ら神^{あり}けれは諸
 と^派あ^らん^たる^らは^らあ^らん^たる^らあ^らん^たる^らあ^らん^たる^ら

あくむざんのかあそりれより又あそり
あそりもあそりあそり

風流志道軒傳

+

